

もっと知りたい、健康のこと。

静岡赤十字病院広報誌

2022年・秋冬号

vol. 364

|季|刊|発|行|

日赤News

information

「四肢関節再建センター」を開設しました



【特集】

早期の緩和ケアががん治療の可能性を開く

知っておきたい 「がん悪液質」

ほっとニュース

医療支援のため
看護師を派遣

しずおかクロスNAVI

がん相談支援センター
就労支援の紹介

初診・再診時の
「選定療養費」変更のお知らせ

表紙には当院で働くスタッフが毎月登場します。本紙の取材・撮影は感染症対策に十分配慮して行っています。

注目の
トピックス

今号のテーマ: **がん悪液質**

早期の緩和ケアが
がん治療の可能性を開く

知っておきたい 「がん悪液質」

急激な体重減少や食欲不振は、
多くのがん患者さんが経験するつらい症状。
長年「病気のだから仕方ない」と捉えられていましたが
近年そのメカニズムの解明が進むとともに、早い段階で
治療を受けることの重要性に目が向けられています。

教えて
ドクター
Q & A

がん支持療法・緩和ケア科
安達 光生 医師

大学卒業後に社会人アメフトチームで選手として活躍、その後医師を志して医学部に進学するという異色のキャリアの持ち主。現在はラグビーのマッチドクターとして試合に帯同することも。神奈川県出身、広島育ち。

Q がん悪液質にはどのような治療の選択肢がありますか。

A がん悪液質には様々な要因、臓器が関わるため、患者さんの病態に応じて栄養療法、運動療法、薬物療法など複数の方法を組み合わせた集学的治療が行われるのが一般的です。栄養療法では、悪液質のステージや症状に応じた栄養の摂り方を指導。症状に応じて食べやすい食事形態や味付け、量、回数を工夫するほか、必要な栄養素を摂れるよう栄養補助食品を活用することも。運動療法では、有酸素運動と筋力トレーニングの組み合わせを基本に、無理のないペースで続けられる内容や量を調整して体力、筋力の維持を目指します。また薬物療法では、病気や治療の副作用から生じる痛み、吐き気、倦怠感などを緩和するために鎮痛薬などが使われることが一般的です。

Q がん悪液質を治療する新しい薬が登場したと聞きます。どのようなものですか。

A 昨年発売された「アナモレリン塩酸塩」（商品名：エドルミズ）は、食欲亢進や筋肉量の増加に効果があるとされる、国内初のがん悪液質治療薬。全てのがんに使用できるわけではなく使用は限定的ですが、体力を維持することでがん治療の選択の幅や可能性が広がること、QOLの向上に寄与できるものとして期待が集まっています。



進行がん患者の5〜8割にみられる「がん悪液質」

悪液質(cachexia)とは「悪い状態」を意味するギリシャ語が語源で、全身が衰弱した状態を表します。心臓病や腎臓病、慢性肺疾患などでもみられますが、特にがんによるものは「がん悪液質」と呼ばれます。

がん悪液質とは、がんが体に及ぼす作用によって筋肉や脂肪がどんどん減ってしまうことで、進行がんの5〜8割にみられます。特に膵臓がん、胃がん、食道がん、頭頸部がん、肺がんで起こりやすく、これらのがんでは患者さんの半数以上にがん悪液質が起こっています。

がん悪液質では体重減少、食欲不振、倦怠感、サルコペニア(筋肉量の減少や筋力の低下)といった症状が生じます。また、手術や放射線療法、抗がん剤といった治療によるストレス、治療の副作用である口内炎や吐き気・嘔吐、味覚や嗅覚障害、さらにはうつ状態や体の痛みなど、様々な要因が原因となっており、悪液質を進行させることがあります。

わかってきたメカニズム、原因はがんによる代謝異常

がん悪液質で体重が減るのは、がんによって慢性的な炎症が起こり、

り、体を守る免疫反応として炎症性サイトカインと呼ばれる物質が活性化、これにより脂肪や筋肉の代謝異常が起こるため。またこの炎症性サイトカインや脂肪細胞から分泌される物質の作用で脳の食欲中枢が抑えられて食欲が減退。このようにしてますます体重減少が加速していきます。

悪液質にも進行度を表すステージがあり(図1、2)、「前悪液質」「悪液質」では治療による栄養状態や代謝異常の改善が可能ですが、「不応性悪液質」に進行して体力が落ちた状態では抗がん剤治療も難しくなり、緩和的治療が中心となります。他方、悪液質の進行を抑えることができれば体力維持につながり、抗がん剤などの積極的治療も続けられるようになります。また治療で症状がさらに軽減されれば余命の改善も期待できます。

がん早期からの緩和ケアがQOLの向上につながる

このように、患者さんが自分らしい生活とともにがんの治療を続けるには、できるだけ前悪液質の段階で栄養療法、運動療法、薬物療法などを組み合わせた治療を始め、急激な体重減少を防ぐことが重要になります。

がんやその治療に伴う苦痛や心のつらさを和らげる治療は「支持療

法「緩和ケア」と呼ばれますが、これらは必ずしも終末期医療に限ったものではありません。患者さんのQOLを維持しながら治療を続けるには、がんの診断早期からこうしたケアを積極的に受けることも大事になってくるのです。

図2) EPCRC*によるがん悪液質の診断基準 (2011年)

- ①過去6か月間の体重減少が5%超
- ②体格指数(BMI)が20未満で体重減少が2%超
- ③サルコペニア*で体重減少が2%超のいずれかに当てはまるとがん悪液質と診断される

*DXA法、BIA法、CTなどによって診断

図1) EPCRC*によるがん悪液質のステージ分類 (2011年)

ステージ	前悪液質	悪液質	不応性悪液質
治療	栄養療法、運動療法、心理療法、薬物療法など集学的な早期の治療が必要		緩和的な治療が主体
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ●過去6か月間の体重減少が5%以下 ●食欲不振や代謝異常がみられる 	<ul style="list-style-type: none"> ●図2の①〜③のいずれかに当てはまる ●食べる量が減っている、あるいは全身性の炎症を伴う 	<ul style="list-style-type: none"> ●悪液質の症状に加えて、体内のタンパク質や脂質、糖質などの分解が進み、抗がん剤治療ができない状態 ●全身状態を示すパフォーマンス・ステータス(PS)が下がっている(WHOの基準で3または4、図表7参照) ●予測される生存期間が3か月未満

【がん悪液質ハンドブック】日本がんサポーターケア学会などを参考に作成

*EPCRC…欧州緩和ケア共同研究グループ

INFORMATION

初診・再診時の「選定療養費」変更のお知らせ

2022(令和4)年4月の診療報酬改定に伴い、10月1日より選定療養費が変更になります。


	2022年9月30日まで	→	2022年10月1日から
初診時	5,500円(税込)	→	7,700円(税込)
再診時	2,500円(税込)	→	3,300円(税込)

この選定療養費は、厚生労働省の制度により病院機能の分担及び業務の連携のための措置として、200床以上の地域医療支援病院での徴収が義務化されているものです。10月1日より紹介状なしで受診する場合の、初診時・再診時選定療養費が変更になります。当院に受診される場合は、原則として紹介状をお持ちくださるようお願いいたします。

表紙を飾った静岡赤十字病院スタッフ

初期臨床研修医 左より
古迫理彩さん

横山友里佳さん



臨床研修病院として、未来の医療を担う後進育成にも力を入れている当院。日夜研修に励む27名の初期研修医を代表し、入職2年目の横山医師、1年目の古迫医師が登場です。「学んだ知識を実地に活かせる日々の仕事が、すごく面白いです」と、充実した毎日を瞳をキラキラ輝かせて話してくれました。

人工関節治療のいっそうの充実をはかります

「四肢関節再建センター」を開設しました

当院では2018年7月に整形外科の西脇徹部長を中心に股関節・人工関節センターを設立、また2021年10月には、膝の治療を専門とする窪田医師の赴任に伴い、中根医師と共に、膝スポーツ・人工膝関節外来を開設しています。

さらに本年4月からは上肢（肩・腕）の治療を専門とする雨宮医師が加わり、より高度な四肢（上肢や下肢）の機能再建の提案ができるように。これを受けて当院では2022年8月より、「四肢関節再建センター」を開設いたしました。

人工関節センターの中にはごく一部ではありますが、人工関節に偏った治療法のみが提案されてしまうことがありますが、当センターでは患者さんひとりひとりの状況を把握、年齢や関節の状態、また生活レベルや患者さんご自身の希望に応じて、相談しながらニーズに適した治療法を提案いたします。

患者さんからは「治療してよかった」、また地域のクリニックの先生方からは「紹介してよかった」と思われるセンターを目指して、スタッフ一同精進して参ります。

受診を希望される場合は、かかりつけ医にご相談の上ご紹介状をお持ちいただき、当院の地域医療連携室にご連絡をお願いします。

四肢関節再建センター



股関節・人工関節センター

担当：
西脇徹 センター長



膝スポーツ・人工関節外来

担当：
窪田秀次郎 副部長
中根弘孝 医師



上肢外来

担当：
雨宮剛 医師



医療の逼迫が続く沖縄県に 医療支援のため 看護師を派遣

現在も収束の兆しが見えない新型コロナウイルス感染症。特に沖縄県においては2022年5月の大型連休以降に感染が拡大、医療体制が逼迫しています。

こうした状況の中、日本赤十字社では厚生労働省より要請を受けて、当院渡邊友里子看護師を6月1日～6月15日の15日間にわたり、同県内の病院へと派遣いたしました。



渡邊看護師より

医療派遣が決定した時は、現場の状況に対応できるだろうかという不安の反面、これまで積み重ねてきた経験によって支援ができるという期待感でいっぱいでした。
派遣先では感染者の多さと医療従事者不足を目の当たりにしてあらためて気持ちが引き締まり、自分自身の感染予防にも非常に気を使いながら、看護に集中する毎日でした。静岡県も引き続き逼迫した状況が続いています。一日も早い収束を願います。

暮らしに役立つ情報をおとどけ

しずおかクロス NAVI

がん相談支援センター 就労支援の紹介

当院では治療と仕事の両立を支援する就労支援相談会を毎月開催しています。

相談者のご希望を伺いながら就職の支援をしますので、ぜひご利用ください。

就労支援
相談会
無料



【対象】当院にてがん治療中の患者さん

- ・離職中だが、治療を続けながらも一度自分に合った仕事を探したい
- ・体調に合わせた条件で働ける就労先を探したい… など

【日時】毎月第2火曜

13:00～/14:00～/15:00～/※原則予約制

【場所】当院 2号館1階 がん相談支援センター

お問い合わせ・お申し込み:TEL 054-254-4311 (代)